成人ウィルムス腫瘍の1例

市立秋田総合病院泌尿器科 (科長: 佐々木秀平)

木暮 輝明 佐々木秀平 松尾 重樹

市立秋田総合病院臨床病理科

加 納 正 史

秋田大学医学部泌尿器科学教室 (主任: 土田正義教授)

守 山 正 胤

WILMS TUMOR IN ADULT: A CASE REPORT

Teruaki Kigure, Shuhei Sasaki and Shigeki Matsuo

Department of Urology, Akita City Hospital

(Director: Dr. S. Sasaki)

Masafumi Kano

Department of Laboratory, Akita City Hospital

Masatsugu Moriyama

Department of Urology, Akita University School of Medicine

(Director: Prof. S. Tsuchida)

A 67-year-old woman was hospitalized because of a month old case of gross hematuria. A retrograde pyelogram revealed a space-occupying lesion in the left kidney. A left renal angiogram showed tumor vessels which were irregular and tortuous. A computed tomography revealed a large mass with central necrosis and a tumor thrombus in the left renal vein. The patient underwent left nephrectomy and radiotherapy. The histological diagnosis was nephroblastoma which is very rare in adults. Forty-six cases of nephroblastoma in adults have been reported in Japan.

要旨: 症例は67歳の女性。血尿と左側腹部痛を主訴に入院となった。左腎腫瘍の診断のもと昭和61年7月2日、手術を施行した。左腎静脈内に腫瘍血栓を認め、病理組織学的にはウィルムス腫瘍と診断され、peroxidase-antiperoxidase 法 (以下 PAP 染色) にてケラチン陽性、CEA 陽性であった。

はじめに

ウィルムス腫瘍は小児期において頻度の高い腹部悪性腫瘍のひとつであるが、成人においてはまれである。最近、私達は腎静脈内に腫瘍血栓を伴った成人ウィルムス腫瘍の1例を経験したので若干の文献的考察を加えて報告する。

症 例

患者: 67歳, 女性。

主訴: 血尿

既往歴: 昭和44年, 左腎嚢腫切除術。

家族歴: 特記すべきことなし。

現病歴: 昭和61年2月, 肉眼的血尿と左側腹部鈍痛を認め3月28日当科受診し精査加療の目的で入院となった。

入院時現症: 身長149cm, 体重60kg, 血圧136/80 mmHg, 左側腹部に手術痕を認める以外に異常はなかった。

入院時検査成績: 血沈; 1時間値40mm, 2時間値78mm, 末梢血液一般, 血液生化学検査に異常なし。尿所見: 赤血球7~12/1視野, 白血球7~10/1視野, 尿細胞診 Class III。

X線検査所見: 排泄性腎盂造影では左腎盂腎杯の描出が不明瞭であった。逆行性腎盂造影では上腎杯は上方へ, 下腎杯は下方へ圧排され占拠性病変の存在を示唆していた(図1)。腹部CTでは, 左腎は不均一な low density mass で占められ, 造影効果の少ないこの腫瘍は左腎静脈内に浸潤していた(図2)。左腎動脈造影では, 比較的 vascularity に乏しい腫瘍血管が左腎

図1 左逆行性腎盂造影

図2 腎CT

全域に認められ、屈曲、蛇行していた(図3)。胸部単純撮影では、右上肺野に直径8mmの転移を認め、骨シンチグラフィーでは右第8肋骨、第4、5腰椎および右腸骨に転移が示唆された。リンパ管造影に異常所見はなかった。

以上の所見より左腎癌と診断し7月2日、手術を施行した。また、入院後増強してきた転移部の腰痛に対して、総量5,400radの放射線療法を施行した。

図3 左腎動脈造影

図4 摘出腎：(↑)は左腎静脈内の腫瘍血栓を示す

手術所見：全麻下に左腎摘出術、リンパ節郭清術を施行した。癒着、出血は少なく摘出は容易であった。外観上、リンパ節の腫大は認めなかった。

摘出標本所見：大きさ13×8×7cm、重量405gであり、断面では上極の一部を除いて黄色ないし灰白色の腫瘍で占められ広範な壊死を伴っていた。また、腎静脈内には小指頭大の腫瘍血栓が存在していた(図4)。

病理組織学的所見：小型円形～類円形の核を有する腫瘍細胞が浸潤性に増殖し、尿管管様構造(図5A)を示す部位や、扁平上皮化生(図5B)、軟骨様組織(図6A)、あるいは未熟な筋線維を含む未分化な線維性成分(図6B)を示す部位を認めた。さらにPAP染色にてケラチン陽性(図7A)、CEA陽性(図7B)の所見

図5 摘出腎病理組織像

図6 摘出腎病理組織像

を認め、Nephroblastoma, nephroblastic type と診断された。

術後経過：入院後に認められた転移部の腰痛は緩和

し全身状態も良好になったが、肺水腫、DIC を併発し術後3ヵ月目に死亡した。

図7 摘出腎病理組織像

(A) ケラチン陽性所見を示す扁平上皮化生部分, (B) CEA 陽性所見を示す尿細管様部分

考 察

ウイルス腫瘍のうち成人型の占める割合は5%前後と少なく¹⁾²⁾, 本邦における成人ウイルス腫瘍の報告例は, 橘ら³⁾の42例集計以降4例を加えるにすぎず, 自験例が47例目と思われる。本邦47例を集計すると男性22例, 女性25例と性差はなく, 患側別では右側21例, 左側23例, 両側1例, 不明2例であり左右差は認められない。年齢別では, 10代(10人), 20代(13人), 30代(4人), 40代(8人), 50代(6人), 60代(5人), 70代(1人)と比較的若年層に多い傾向がみられ, 平均年齢は35.7歳であった。主訴では, 腹部腫瘍の触知が最も多く25例(53.2%)であり, 次いで血尿15例(32%), 腹痛5例(10.6%), 発熱3例(6.4%)となっている。

術前にウイルス腫瘍と診断できる決定的な検査法はないが, 腎細胞癌との鑑別には血管造影法が有効であるとの見解が多い^{4)~6)}。それによれば, ウイルス腫瘍の腫瘍血管は動脈相後期から腎実質相にかけて最も鮮明に認められ, 屈曲, 蛇行して, 折れ釘様, spider leg, spaghetti pattern, spiral cork-screwなどと形容されている。自験例でも屈曲, 蛇行した腫瘍血管が動脈相

後期に認められたが, 術前にウイルス腫瘍を強く疑うことはできなかった。

斉藤ら⁷⁾はウイルス腫瘍の剖検例163例中, その84%に転移を認めており, 肺(60%), リンパ節(52%), 肝(42%)の順に多かったと報告しており, 自験例でも肺, 骨転移を認めた。しかし, 自験例の如く, 腫瘍血栓を認めたものは非常に少なく, 小児, 成人を通じてわずか6例であった。

一方, 病理組織学的には極めて多彩な所見を示すため, 正確に成人ウイルス腫瘍の例数を把握するのは困難であると思われる。実際, Kiltonら⁸⁾は, 192例の成人ウイルス腫瘍報告例を組織学的に再検討したところ, ウイルス腫瘍といえるのはわずか35例であったとしている。自験例は, 腫瘍細胞の多彩な分化により, 未熟な尿細管様の構造や扁平上皮化生, あるいは間葉系の組織として軟骨様組織や胎児型横紋筋肉腫に似る組織が観察され, 日本病理学会小児悪性腫瘍分類委員会⁹⁾によるウイルス腫瘍の診断基準に一致する所見を得た。さらに, PAP染色によってケラチン陽性, CEA陽性所見が得られ, 診断を確認し得たことは特記すべき点であろう。

結 語

67歳女性に発症し、腎静脈内腫瘍血栓を伴った成人
ウィルムス腫瘍の1例を報告した。

文 献

- 1) Klapproth, H.: Wilms' tumor—A report of 45 cases and analysis of 1,351 cases reported in the world literature from 1,940 to 1,958. *J. Urol.*, 81, 633—648, 1961.
- 2) Chung, T.S., Reyes, C.V. and Stefani, S.S.: Wilms tumor in adults. *Urology*, 3, 275—277, 1984.
- 3) 橋 政昭, 萩原正通, 畠 亮, 田崎 寛, 都築俊治: 成人 Wilms 腫瘍の長期生存例, *癌の臨床*, 27, 1381—1387, 1981.
- 4) Meng, C.H. and Elkin, M.: Angiographic manifestation of Wilms' tumor. *A.J.R.*, 105, 95—103, 1969.
- 5) Katzen, B.T. and Markowitz, M.: Angiographic manifestations of bilateral Wilms' tumor. *A.J.R.*, 126, 802—806, 1976.
- 6) 松永尚文, 林 昭, 二川 栄, 森 宣, 稲月伸一: ウィルムス腫瘍の血管造影診断—成人型ウィルムス腫瘍の1例を含めて—, *臨放*, 26, 1385—1389, 1981.
- 7) Saitoh, H., Shiramizu, T., Nakamura, K. and Satoh, T.: Influence of age and nephrectomy on metastatic patients in Wilms' tumors. *Tokai J. Exp. Clin. Med.*, 7, 345—354, 1982.
- 8) Kilton, L., Matthews, M.J. and Cohen, M.H.: Adult Wilms tumor: A report of prolonged survival and review of literature. *J. Urol.*, 124, 1—5, 1980.
- 9) 日本病理学会小児腫瘍組織分類委員会編: 小児腫瘍組織分類図譜, 小児肝癌, 胃芽腫, 神経芽腫分類腫瘍, 1, 23—46, 金原出版, 東京, 1975.

(1988年5月10日受理)